

踏まれ踏まれても生き返る

NO.36 2025.7.25

COM-MATCHAN

いたばし雑草通信

メール発信のみの情報紙です。無料購読希望の方はメールでお申込みください。

編集：発行 木村松夫
090-8646-9757

matsuokimura@gmail.com
com-matchan@hotmail.co.jp

板橋区立エコポリスセンター「かんきょう観察員」登録
地域自主活動グループのWEBページでも閲覧できます。ほかのグループのレポートも見てください

ファシズムはお祭り騒ぎでやってくる

「ファシズムの時代はひどかった」というのはこの体制が敗れた後から振り返って言われることで、ドイツでもイタリアでも、そして天皇制下の日本でもどこでも民衆が下から押し上げる大衆運動があつて成立したものでした。

リーダーたちは、いずれも、国民の間に蔓

延する不満の原因を、自国経済を圧迫する外国勢力や社会の足を引っ張る外国人・少数者や反政府勢力の存在に求め、その排除を訴え、そのための強権政治を推進してきました。

戦後80年、日本にも再びファシズムが復活する危機が現実のものとなってきました。

現状を生み出した革新勢力のダメさ、社会活動に打ち込んできた自分に腹が立つ！

参議院選挙の東京選挙区から立候補した参政党さや氏の演説＝「左右のイデオロギーで戦ってる場合じゃないの。日本はそんな余裕ないの。国民の6.5人の1人が貧困。1人親世帯の2・3世帯の1世帯が貧困。・・・、子供がご飯も食べられない状況で右だの左だの大人が騒いでる場合か。まずは子供を助けてからにしてください。まずは日本人の貧困を救ってからにしてください」は、（数字の確かさは別にして）たしかにどの野党政党の訴えよりも力があり、聴く人々の心を捉えるものでした。

しかし、その一方で、社会の最下層で働く外国人労働者を排斥したり「原爆がいちばん安上がり」等と公言。さらに、この党が掲げる憲法草案には民主主義条項がすっぽりと抜け落ちていて、素顔を見れば恐ろしいファシズム政党。

最終日に参政党の演説会場を埋めた、あの人々の熱狂ぶりに鳥肌が立ちました。それに対して罵倒で異を唱える人々の言動も同じように危険だと思いました。事実に基づいた冷静な議論で現代社会の矛盾を見つめ、未来を探るべきです。

何よりもダメなのは、巨大利権を守り抜くだけの政治しかしてこなかった政権党の不正を糾し、民主主義を守り抜くはずの革新政党の無力さ。利権のあり場所が異なるだけで自民党と変わらない政治に墮してしまったことに腹が立ちます。

いちばん腹が立つのは、戦後第一世代として生まれ、大人になってから様々な社会活動に参加してきた自分自身。いったい何をしてきた80年間だったのか？！ **こんな世の中を許してひまって、恥ずかしい！**

ニシキソウ

と

コニシキソウ

トウダイグサ科



草が多い道端ではよく見かけるのですが、地面に張り付くように生えていて、しかも花は直径2mmあるかないかの極小なので、誰～れも注意しないのがニシキソウとその仲間のコニシキソウ。どこが違うのかというと右のコニシキソウの葉には黒い斑点があるのに対して、左のニシキソウの葉には斑点がないのが違いということですが、よく見られるのはコニシキさんのほう。こちらは外来種だそうで、その分繁殖力が強いのでしょうか、最近では左の在来種ニシキソウはほとんど見られなくなりました。先端部分の葉に黒斑点が見られなくても、根元近くでは斑点ありの「交雑種」みたいのも多いです。

さて、上写真でニシキソウと同定したのは木村ですが、いつもながら不安定同定。真実は如何に？

石神井川加賀橋近くの不思議な緑地

石神井川は1960年代までは曲がりくねっていました。大雨が降ると、急流になって流れが右岸にぶつかり、右岸が削られ、流れはその反動で左岸にもぶつかり、こちらも削られて、くねくねと曲がりくねった川筋だったのです。これが洪水の原因と考えられ1970年代には川は直線化され、三面コンクリート張りの現在の流れがつくられました。川筋のあちこちにある緑地は、この川筋の湾曲部分を埋め立てたものです。

本来の高さは川面と同じはずで、北区滝野川地区の「音無もみじ緑地」はワンドのような水辺として整備されました。「板橋の橋」近くの釣り堀や「水辺公園」は川から水を汲み上げて水辺を作っています。

さて、写真右の板橋区加賀エリアの「加賀橋公園」向かいには、緑道からかなり下がって川面からはかなり上がった、とても中途半端なところに湾曲地利用の緑地があります(上の写真の手前のみどり)。



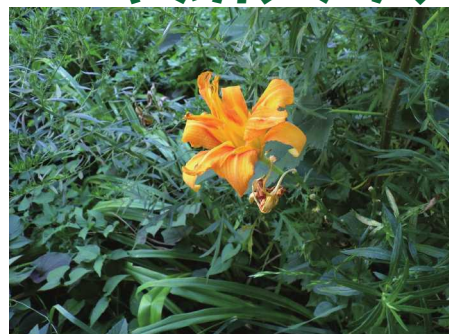
アガパンサス→

ここはかつての観察・記録活動の対象エリアではなかったので詳しくは観ていなかったのですが、アガパンサスの群落は以前は真っ青だったはず。青い花は今では1株だけで、あとは白色に変化していました。日本では園芸種として育生されてきた種だと思うのですが、年月を経て野生化して退化・褪色したのかしら？



その傍には、最近めっきり見られなくなった野草が咲いていました。

ワスレグサまたはヤブカンゾウ↓



古い植物図鑑ではヤブカンゾウとあるのすが、最近のネットではワスレグサ。科名がそのまま種名になっているようです。どうして??